

順天堂大学
学長 新井 一 殿

順天堂大学 外部評価委員会

2023年度 順天堂大学外部評価委員会 評価報告書

1. 外部評価委員会評価報告書の目的

順天堂大学は、『内部質保証に関する方針』、『順天堂大学内部質保証に関する規程』及び『順天堂大学自己点検・評価に関する規程』に基づき、内部質保証の推進に必要な自己点検・評価を、毎年度、全学的に実施している。

2023年度外部評価委員会は、順天堂大学学長から、2022年度を対象とした自己点検・評価項目のうち、後述する3つのテーマについて、評価依頼を受けた。本委員会は、『順天堂大学外部評価委員会規程』に基づき、これら3つのテーマに係る自己点検・評価の客観性及び妥当性並びに内部質保証の有効性に関する評価を行ったので、その評価結果を以下のとおり取りまとめた。

2. 評価対象・評価方法

評価対象は、以下の3つのテーマであり、順天堂大学から提出された『2023(令和5)年度 順天堂大学 外部評価委員会 評価依頼事項』及びその根拠資料並びに委員会当日(令和5年7月26日)の質疑応答に基づいて、客観性・妥当性・有効性の観点から評価を行った。

＜評価依頼のあったテーマ＞

- 1) 内部質保証の方針と手続きに基づき、教育における内部質保証システムは有効に機能しているか
- 2) 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか
- 3) 本学の入試の適切性について検証を行えているか

3. 各テーマに対する評価

1) 内部質保証の方針と手続きに基づき、教育における内部質保証システムは有効に機能しているか

<概評>

内部質保証のための全学的な方針、体制及び手続きは整備されている。内部質保証の推進に必要な自己点検・評価は、毎年度、自己点検・評価運営委員会及び同部門委員会において実施されている。その結果に基づき、内部質保証推進委員会では、改善の取り組みや更なる教育の質向上への取り組みが行われている。成績評価の確認及び成績に対する異議申し立て状況、授業科目終了時の授業評価アンケート実施、成績評価基準の統一、学修成果の把握・可視化への対応、カリキュラムマップ・ツリーの整備、情報戦略・IR推進室が担当する学修成果のアンケート実施等について確認した。また、学外者からなる外部評価委員会を開催し、自己点検・評価及び内部質保証の取り組みについて、客観性・妥当性・有効性の観点から評価を受けている。2022年度の提言（1件）に対しては、規約を改正し、適切に対応している。内部質保証システム自体の適切性の点検・評価については、大学の教育・研究に関する最上位の審議機関である学長主宰の大学協議会がその役割を担っている。同協議会では、内部質保証推進委員会及び外部評価委員会の審議内容並びに各部門の対応状況の報告を受けて、内部質保証システムが適切であることを確認している。

以上のことから、教育における内部質保証システムは有効に機能していると言える。

2) 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか

<概評>

学士課程、大学院ともに、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を評価する指標として、「アセスメント・プラン」を定めている。

学士課程においては、シラバスに各授業科目とディプロマ・ポリシーに示した資質・能力、より具体化したコンピテンシーとの関連を明示している。学習成果の把握・評価は、授業科目毎の成績評価を基本とし、次に示す指標も複数組み合わせで行われている。①コンピテンシーの達成度評価、②GPA、③アセスメントテスト

(CBT, OSCE 等)、④技術経験に関する評価、⑤ルーブリック、⑥ポートフォリオ、⑦卒業試験・卒業論文、⑧TOEFLである。また、情報戦略・IR推進室では、学修成果アンケート調査（新入生、上級生、最終学年）を行い、学修成果の把握に努めている。医学部のコンピテンシーの達成評価について、個々の授業科目とコンピテンシーとの関連がレベル別に提示され、全体が俯瞰できるようになっていることは評価できる。一方、コンピテンシーの割り当ての妥当性や、各授業科目における評価において、割り当てられたコンピテンシーの領域に合わせて、その達成状況を適切に評価できる方法を用いているか、更なる検討が必要と考える。

大学院における学習成果の把握・評価は、授業科目毎の成績評価を基本とし、論文発表に到るまでの各過程でも把握・評価している。研究計画書・研究指導計画書、研究指導状況報告書、中間報告会、ポスターセッション、学位論文審査を通して、身につけるべき資質・能力の達成度を評価している。研究科によっては、評価方法に差が

あるように見受けられたので、引き続き、多角的に把握が行われるように検討を重ねて頂きたい。

大学では、カリキュラムマップ・ツリーの整備、教学 IR データの活用を課題として認識している。また、各学部・研究科においても、それぞれ学習成果把握に関する課題を認識している。今後の自己点検・評価の中で、対応状況を説明するようにして頂きたい。

<提言>

- ・全学的にカリキュラムマップ、カリキュラムツリーの整備状況を点検していることは確認できた。一部の学部・研究科において未整備のカリキュラムマップ・ツリーを着実に整備することが望まれる。
- ・学修者本位の教育の実現と質向上につなげられるように、情報戦略・IR 推進室と各学部・研究科が連携し、多様なデータの整理と活用を推進する体制を構築することが望まれる。
- ・新設学部（医療科学部・健康データサイエンス学部）では、コンピテンシーの整備が進められている。コンピテンシーを着実に整備し、その達成度を評価することが望まれる。

3) 本学の入試の適切性について検証を行えているか

<概評>

大学全体には全学入試委員会・大学院入試委員会、各学部・研究科には入試委員会、入学者選抜委員会、入試検証委員会を設置しており、各委員会が有機的に機能し、入試の適切性が確保される体制となっている。

各学部・研究科では、入試検証委員会において、公正性・適切性についての具体的な判断基準が示された「検証事項チェックリスト」によって検証が行われている。その検証結果を踏まえて、入試委員会において今後の対策等が検討されている。入試検証委員会の役割は重要であり、同委員会は建設的に機能しているものと考えられるので、継続的な検証をお願いしたい。

大学では、各学部・研究科の検証結果を踏まえて、全学入試委員会・大学院入試委員会において、全学的な立場から、学生募集、出願手続き、個別学力試験、小論文・面接、合否判定、合格発表等の各段階において、公正を確保し適切に行われたことを検証している。また、内部質保証推進委員会においても、自己点検・評価報告書の内容に基づき、全学的視点での検証が行われている。

以上のことから、各学部・研究科レベル、大学レベルで、それぞれ入試の適切性について検証を行っているものと評価できる。それぞれの検証結果と分析等を、今後の取り組みに効果的に活かしていくことを期待したい。

また、各学部・研究科では、学生受け入れに関する課題の把握と改善方策も検討されており、改善の取り組みに期待したい。

4. まとめ

2023年度外部評価委員会は、2022年度を対象とした自己点検・評価をもとに、上記3つのテーマについて、評価を行った。それぞれのテーマにおいて、順天堂大学の対応は適切・妥当であったと評価できる。大学には、教育研究等の状況について、自ら点検・評価を行い、その評価結果をもとに、質の向上を図り、適切な水準にあることを自らの責任で説明し証明していくことが求められている。順天堂大学では、毎年度、全学的な自己点検・評価が実施され、その結果をもとに改善活動を行う仕組みが構築されていることから、この仕組みをしっかりと機能させ、継続的に教育研究活動等の更なる改善・向上に取り組んで頂きたい。内部質保証の推進に責任を負う内部質保証推進委員会が主導する教育の質向上の取り組みにも期待したい。また、第三者の視点で行う外部評価委員会の評価についても、順天堂大学の取り組みの妥当性・適切性を客観的に評価し透明性を確保していくための重要なプロセスの一つであることから、定期的かつ継続的に実施していくべきであると考え。当委員会からの提言に対しては、学長の指示のもと、内部質保証推進委員会を中心に検討し、適切に対応している。今後とも、順天堂大学が、社会情勢の変化を踏まえて自らの責任でその質を保証する高度な教育研究活動を通じて、社会の信頼に応えとともに、国際レベルでの社会貢献と人材育成に邁進することを期待する。

以 上

2023 年度 順天堂大学外部評価委員会 委員

所属	役職	氏名
学校法人長聖	理事長	○ イチカワドイル 徳恵
東海大学体育学部	教授	勝田 隆
丸善雄松堂(株)	執行役員	井上 賢一
筑波大学医学医療系地域医療教育学	教授	前野 哲博

※委員長：○印